



「『鳥獣戯画』を読む」

教科書P142

■ 学校図書館などを利用し、日本文化について書かれた本を読みましょう。
 「『鳥獣戯画』を読む」で学んだことをもとに、次の点についてまとめてみましょう。

- ①よさを説明したり、評価を述べたりしているところで、まねしたいところ。
- ②写真や絵の使い方、説明の仕方では効果的だと思った点。

「選んだ本」 筆者・書名・発行年・出版社

②	①



筆者の考えと表現の工夫をとらえる

- 筆者の伝えたいこと、絵などの資料の使い方との関わりを考えて読む。
- 取り上げたものに対して、何に着目し、どのような言葉で説明や評価をしているかを捉える。

■ 学校図書館などを利用し、日本文化について書かれた本を読みましよう。
 『鳥獣戯画』を読む」で学んだことをもとに、次の点についてまとめてみましよう。

- ①よさを説明したり、評価を述べたりしているところで、まねしたいところ。
- ②写真や絵の使い方、説明の仕方では効果的だと思った点。

〔選んだ本〕 筆者・書名・発行年・出版社

監修 社団法人日本煙火協会 写真 泉谷玄作

「職人の技が光る 花火の大図鑑」 2009年7月 PHP研究所

- ①
 - ・ 昼花火と夜花火に分け、さらにそれぞれの花火の名前と特ちょうを図と絵と写真で説明しているので、花火の種類の全体が分かる。
 - ・ 仕掛け花火の写真を紹介し、図や絵と文章をあわせて説明があるので、点火の仕組みや動きの様子が理解できる。
 - ・ 「もしすべてが同じ大きさだったら、花火大会もずいぶんつまらないものになってしまうことでしょう」など、相手の立場に立った文章を加えることで、花火には、いろいろな種類や大きさがあることを読み手に納得させている。
 - ・ 各項目のタイトルの次に、「○○しよう！」「○○いるの？」と読み手に投げかける文章があるので、読み手は自分で解決していくような気持ちになる。

- ②
 - ・ 表紙裏に「次の花火は、なにをあらわしている？」とクイズを出題。花火の写真とヒントが載っている。そして、「答えはこの本の中にあります」と図鑑をじっくりと見させる工夫がされている。
 - ・ 花火玉の大きさによって、打ちあがる高さや花火の開く直径の大きさの違いがあることを、東京タワーやスカイツリーなどみんなが知っているものと比べながら図で説明しているのが分かりやすい。

